



社会科の学び方を育てる指導の工夫

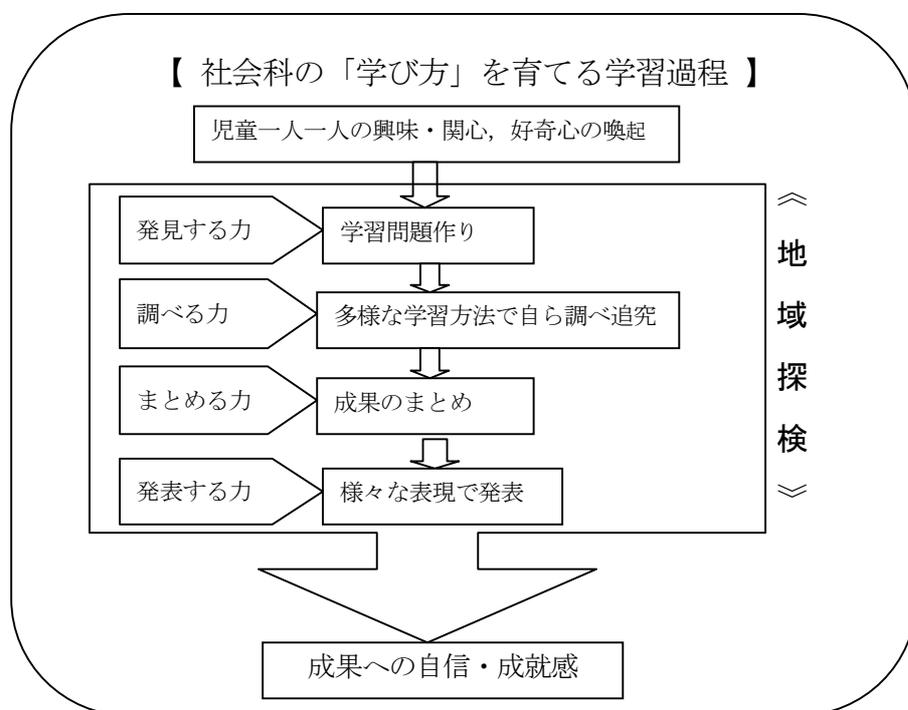
～地域探検を通して～

南城市立大里南小学校教諭 大城 憲政

1 研究テーマについて

これまでの授業を振り返ってみると、児童に考えさせる学習ではなく、教師が進める学習展開が多かったことを反省する。そこで、児童が、身近な地域を観察、調査する地域探検を通して、より児童主体の授業の工夫改善を図っていく。そのために、「発見する力」、「調べる力」、「まとめる力」、「発表する力」、この4つの力を高めることによって、社会科の「学び方」を育てたいという願いから本研究に取り組んできた。

2 研究の方法



3 授業の実践



発見する



調べる



まとめる



発表する

4 研究の成果

3回の「地域探検」を実施することにより、発見した「はてな」をもとに学習問題を作り、さまざまな資料や情報を活用するなど「発見する力」と「調べる力」は高まったと考えられる。また、壁新聞や紙芝居、レポート形式、ペーパーサートに図や写真などを利用するなど多様な表現方法を用いてまとめたり、まとめた作品を級友に分かりやすく説明するなど「まとめる力」と「発表する力」も付いてきたと考えられる。このような、児童の成長から社会科の「学び方」は育ってきている。

社会科の学び方を育てる指導の工夫

～地域探検を通して～

南城市立大里南小学校教諭 大城 憲政

I 研究の目的

学習指導要領から

児童に主体的な「知りたい」、「調べたい」という学習意欲を持たせるための効果的な社会科の学びとして、「体験的な学習」が考えられる。その「体験的な学習」を小学校学習指導要領解説社会科編では、具体的に「観察、調査する」とし、「地域の地理的環境や人々の社会生活の様子を具体的にとらえたり、その特色や相互の関連などについて考えたりするために、地域における社会的事象を自分の目でよく見たり、調べたりすることである。」としている。

そして、自分たちが住んでいる身近な地域にある、公共施設、工場、スーパーや薬局、など多くの住民が利用している施設といった自分たちの生活にかかわりのある社会的事象を観察、調査する「地域探検」を取り入れていきたい。この地域探検によって、小学校学習指導要領解説社会科編の目標「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」に迫ることができると考える。

また、このような社会科の「学び方」を育てることによって、小学校学習指導要領解説社会科編の目標「地域社会の一員としての自覚を持つようにする。地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」に近づくことができると考える。

教師の課題と児童の実態

これまでの授業を振り返ってみると、教科書や副読本を中心にした教師が進める授業になりがちであった。自分たちで見つけた「はてな」から学習問題を作って解決していく過程において、教師が「このことについて考えてみよう」と先に示すことがあったのではと反省する。

また、地域探検を楽しみにしている児童へ「なぜ行くのか」、「何を見つけ、何を調べるのか」、「発見したことのまとめ方」などの働きかけや学び方への支援が不十分であった。それにより、校外に出ることがお楽しみになってしまい、社会的事象から何かを発見したり、疑問を持ったりすることが苦手な傾向が見られた。そのため、新聞作りなどのまとめ学習では、一部の児童が中心になって活動している実態があった。

このようなことから、地域探検を通して社会科の「学び方」を育てる指導の工夫を身に付けたい。

本研究において

本研究では、身近な地域の社会的事象を観察、調査する「地域探検」を通して、児童の社会科の「学び方」を育てる学習指導の工夫改善を図りたい。「地域探検」を通して、「はてな」をもとに学習問題を作り、追究しながら地域のよさや自分たちの生活とのかかわりに気付かせたい。

そこで、授業では、作った学習問題を解決したり、調べた内容をもとにクイズを作ったり、身近な地域素材を使って児童の「知りたい」や「調べたい」という学習意欲も引き出したい。その中で、生まれた新たな発見や疑問を解決するために、「もう一回調べに行きたい」という児童のニーズが予想されることから、繰り返し地域とかかわらせたりする単元構成の工夫をしていく。

そして、「はてなは解決したか」、「わかったことや新しい発見は何か」など、地域探検で得た情報をもとに調べ、まとめ、発表する。様々な表現で作品を聞き手にわかりやすく伝えることにより、身近な地

域のよさに気付き、住んでいてよかったという地域への愛着と誇りを持つことが期待される。

このように、地域の素材を活用した「地域探検」を通して、学習指導の工夫改善を行えば、児童の社会科の「学び方」は育つであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

地域探検を通して、発見した「はてな」をもとに学習問題を作り、調べ、まとめ、発表する社会科の「学び方」を育てる。

III 研究の方法

授業実践の中で、地域探検を通して次のような方法を行なう。

- 1 児童が発見した「はてな」をもとに学習問題の設定を行なう指導の工夫
- 2 児童が意欲的に調べ追究する指導の工夫
- 3 児童が調べたことをまとめ、相手にわかりやすい方法で表現する指導の工夫

IV 研究の内容

1 「学び方」について

児童が身近な地域の社会的事象に対して興味や関心を持つことが「学び方」を育てる第一歩になると考える。そこで本研究では、「学び方」を、「発見する力」、「調べる力」、「まとめる力」、「発表する力」と捉え、それぞれを高めるために児童の学習意欲を引き出していきたい。

(1) 「発見する力」

児童が主体的に社会的事象から学習問題を見つける技能であり、ものを見たり聞いたりして「はてな」(だれが、何を、いつ、どこで、なぜ、どのようにして)という疑問を持つことである。この「はてな」(5W1H)が、児童の「知りたい、調べてみたい」という学習意欲を沸き立たせるものになる。

これら身近な地域の社会的事象に着目させ、「はてな」を発見させる。そのことにより、児童が主体的に、「知りたい」や「調べたい」、「見てみたい」、「行ってみたい」などの好奇心の高まりが、「発見する力」を高めていくと考える。

そして、これらの「～してみたい」という欲求が学習につながり、学習問題作りへつながっていく。

(2) 「調べる力」

作った学習問題を解決するために、予想を立てる中で、「地域を探検して調べたい」という児童の学習意欲を引き出していくことが大切である。そのために教師は、調べる方法、情報の集め方、記録の仕方など、多様な学習方法を指導、支援する必要がある。また、児童が自ら調べ、追究する方向性を示してあげることも大切である。

そこで、児童が探検によって見聞きして得た情報を整理させ、学習問題の解決に必要な情報か、複数の情報の比較などグループで検討させることも重要である。

また、図書館の図書資料、インターネット、電話で得た情報などグループで相談しながらどのように活用するか、どのようにまとめや発表につなげていくか思考を深めていく。

「調べる力」とは考える力であり、さまざまな資料や情報を整理して活用する力でもある。有田和正氏は著書『学習技能を鍛えて「追究の鬼」を育てる』の中で、調べるということは、「考える」ことであるとしている。そして、調べ、考えるには「資料の活用」が不可欠であると言っている。同様に、小学校学習指導要領解説社会科編では「資料を活用する」ことを「必要な情報を読み取る。表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。必要な資料を収集する。」としている。そして、考える力も「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、人々の生活の特色につ

いて考える力、他地域や外国との結びつきなどについて考える力」などと強調している。

それらのことから、「考える力」や「資料を活用する力」を育てることで、より身近な家庭や学校と調べる対象と比べてみたり、他の地域とのつながりを見つけたりする視点が育ち、地域社会の社会的事象がなんらかの形でつながり、影響しあっていることにも気付くと考えられる。

(3) 「まとめる力」

地域探検によって、調べて分かったことや考えたことなどを自分なりに整理することは、学習の成果をより確かなものにする。この整理する学習が「まとめる力」であり、自分の得た知識や考えたことをまとめることによって、広く他者にも伝え理解されることになる。よって、グループで相談しながら進めていく時に、個々の児童が、自分のまとめた内容を主張することが大切である。

- ア 言語を中心とした表現方法・・・発表、話し合い、討論など
- イ 文字や絵を使った表現方法・・・絵地図、壁新聞、イラスト、紙芝居など
- ウ 身体を使った表現方法・・・劇、動作化、ペープサートなど
- エ 視聴覚機器を活用した表現方法・・・パワーポイント、ビデオ、パソコンなど

資料1 多様な表現方法

まとめ方については、資料1の「多様な表現方法」を選ぶなど、できるだけ一人一人或いはグループの考えが活かされるように配慮したいものである。

(4) 「発表する力」

調べた内容を様々な表現を用いて、まとめた作品や自分の考え、感想を交えて、相手に分かりやすく伝えることである。また、発表するとは、自分の考えを誰かに伝える行為であることから、学習全体を通して、話し合い活動などで自分の意見や感想を伝えることができるように支援する。発表する際、作品の持ち方や見せ方、話し口調などを工夫するだけで伝わり方が違うことも指導する。

そして、友だちの発表の良いところや工夫しているところなどを見つけることも大切になる。

このように、日々の学習の中で個々の児童の「発表する力」を高め、地域探検で得た情報を各グループのアイディアを活かして様々な表現で発表会に臨むようにさせたい。

2 地域探検について

(1) 地域を探検する意義

完全学校週五日制に伴い、地域の教育力が求められてもうすぐ10年になる。その頃から児童の放課後、土曜日の居場所づくりを地域、家庭が連携して実現しようとするさまざまな取り組みがなされてきた。地域によっては、公民館において老人会の方々による地域に伝わる民話の読み聞かせや玩具作り、黒糖作りなどの試みが成されていたことも記憶に新しい。

しかし、そのような取り組みが継続されて、児童は地域のことを良く知っているかということと必ずしもそうとは言い切れない。

そこで、社会科の授業として、児童に地域を知る機会を与える。ただ住んでいるだけではなく、地域の良さに気づき、南城市大里に住んでいてよかったと感じさせるために、積極的に「地域探検」を取り入れていく必要がある。

教室から出て地域を調べ歩くということは、児童が身近な地域のお店、施設、文化財など社会的事象とかかわらせ、それらの存在意義を考えたり、知ることである。また、地域に住む人とかかわりの中から、彼らの思いや願いに気づくことも大切である。

例えば、地域行事に多くの児童が参加して欲しいと願う人たちや子ども会の活動、地域の清掃活動など児童に、地域の取り組みに関心を持ってもらいたいと願う人たちはたくさんいる。文化財を守り伝えようとする人たちは、希望があればいつでも学習の手伝いをする用意ができていう。また、農家やJA大里、軽便駅かりゆし市などのみなさんのように、新鮮な野菜を提供し、健康な大里っ子に育てて欲しい、という強い願いを持って仕事をしている人たちもたくさんいる。

このような人たちとかかわりながら、身近な地域の社会的事象に触れる「地域探検」を実施する

ことで、小学校学習指導要領解説社会科編の目標「地域社会の一員としての自覚を育てる」、「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」に、より近づくのではないかと考える。

(2) 方法

地域探検は、校外学習として実施するものであるから、関係機関との連絡、調整など綿密な計画が必要である。その際、服装や携帯品、撮影など見学先の迷惑になる行為についての確認も忘れてはならない。そして、予想される危険箇所など安全面への配慮も欠かせない。

右の資料2の見学先の選定とは、児童が挙げた見学先が、地域探検として実施可能か、単元のねらいにもとづいて、学校からの距離、見学敷地の大きさ、危険性などを考慮して学年で検討する。

そして、児童が主体的に「知りたい」や「調べたい」という学習意欲を持って作った学習問題をもとに見学先を決めていく。その際、児童の「調べに行きたい」という思いを尊重しながら、「何を」、「どのように」調べさせたいという、教師の意図する部分も踏まえて決定することが望ましい。

- ①指導計画に地域探検を位置づける
- ②見学先の選定
- ③マイクロバスの手配
- ④学習問題作り（児童個々で作り、解決のための予想を立てる）
- ⑤見学先の決定・依頼文の発送
- ⑥見学先やガイドとの調整
- ⑦質問項目をあらかじめ届ける
- ⑧地域探検の安全・マナー指導

資料2 地域探検の手順

(3) 留意点

体験的な学習には、室内で壁新聞を制作したり身近な地域の地図をかいたり、地域に出向いて情報を収集したりと多様な方法がある。その中でも地域探検は、「発見する力」で見つけた「はてな」を解決するために調べ、収集した情報を整理しグループごとにまとめる。そして、グループごとに様々な表現で発表するという一連のつながりを持った学習である。それだけに長い時間を要することから、主体的な児童の学習態度と児童の探究心をゆさぶる教師の指導や支援が大切である。

つまり、地域探検は、教師が進めるのではなく児童の興味や関心をゆさぶり、「調べてみたい」「もっと勉強したい」という主体性を引き出さなければならない。

そこで、「地域探検」が、観察、調査する学習として効果を出すために、小学校学習指導要領解説社会科編で挙げられている五つを参考に進める。〈資料3〉このような具体的な留意点は、地域探検に出かける前の学習から探検で得た情報をもとにまとめ学習や発表する学習へのつながりが明確になると考える。

ありのままに観察することで、社会的事象に対する素直な思いを書き記し、着目した調査によりデータ収集ができる。そして、ねらいに沿った観察、調査をすることで、作った学習問題を解決することができるであろう。次に、対比と相互の関連によって新しい「はてな」が生まれ、もっと調べたいという学習意欲が湧いてくることが考えられる。

- ①ありのままに観察する。
- ②数や量に着目して調査する。
- ③観点に基づいて観察、調査する
- ④他の事象と対比しながら観察、調査する。
- ⑤まわりの諸条件と関連付けて観察、調査する。

資料3 観察、調査する学習の留意点

V 研究の実際／授業実践

児童が意欲的に参加する地域探検を通して、社会科の「学び方」を育てるために、2回の授業実践を行い、工夫改善を図る。

1 授業実践①

(1) 単元名：地域探検（沖縄バヤリース工場見学）〈12月〉

① 授業のねらい

- ア 地域で生産されているものに、児童に関心を持たせることができる。
- イ いくつもの「はてな」を発見させることができる。
- ウ 身近な地域（大里）に誇りを持たせることができる。

② 検証のねらい

地域探検（工場見学）を通して、児童が社会科の「学び方」によって「はてな」を見つけ、学習問題を作り、調べ、まとめ、発表することができる。

「学び方」を育てる具体的な指導の工夫	発見する力 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象（工場の機械、働く人たち等々）から「はてな」を見つけさせる。 ・「はてな」をもとに学習問題を作らせる。 ・児童が気づかない時は、クイズ形式の質問をする。
	調べる力 <ul style="list-style-type: none"> ・作った学習問題を解決するための方向性を示す。 ・工場の方への質問はワークシートに準備しておく。 ・気づいたことや思いついたことはメモをとらせる。
	まとめる力 <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間までに書き留めたメモが、まとめる時の材料になることに気づかせる。 ・集めた資料や写真などを使ってまとめさせる。 ・壁新聞や紙芝居など、児童が選ぶ表現方法でまとめさせる。
	発表する力 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示や手持ちの資料を示しながら、聞き手にわかりやすく説明させる。 ・発表の仕方（①聞き手に伝わりやすい声で話す。②聞き手の目を見ながら話す。③資料を指差したりしながら話す。）、発表の聞き方（①静かに話し手を見ながら聞く。②よいところや、わからないところはメモをする。③発表が終わったら拍手を送る。）これらを全員で確認する。

(2) 実践計画

月日 時間	検証のねらい	児童の活動	教師の支援（○） ＜研究の視点＞	実際の児童の姿	検証結果
12/3 (金) ①	飲み物を作る工場見学に行く事に興味を持たせることができたか。	写真などの資料を見て疑問点（はてな）を探す。「だれが」「どこで」「なぜ」などを使う。	○スーパーの陳列棚の写真を見て、どこから来るのか考えさせる。 ○生産と販売の関係に気付かせる。 ＜発見する力＞	外国・福岡から来る、工場で作られるなど多様な意見が出た。	児童の発表は活発であり、興味、関心を持たせることができた。
12/6 (月) ②	工場へ興味を持たせる事ができたか。 学習問題を作らせることができたか。	前時の「はてな」をもとに学習問題を作る。 学習問題ごとにグループを編成する。	○前時のワークシートから、お互いの「調べてみたいこと」を相互交流させる。 ＜発見する力＞	「どこから来るのか」、「なぜここにできたのか」など学習問題を作っていた。	バヤリース工場への興味、関心は高まった。 学習問題を作らせることができた。
12/8 (水) ・ 12/9 (木) ③ ④	学習問題に対する予想を立てさせることができたか。 学習問題ごとのグループで話し合いをさせることができたか。	既習の知識や経験をもとに学習問題に対する自分なりの予想を立てる。 グループごとに分かれて、見学の計画をたてる。	○自分の学習問題に対して、既習の知識や経験をもとに自分なりに予想を立てさせる。 ○「たぶん～は～であろう」、「わたしは～な理由で～だと思う」など、具体的な予想を示す。 ＜発見する力＞	自分が作った学習問題に対する予想を立てていた。 学習問題グループごとの学習問題を整理して話し合いをしていた。	作った学習問題に対する予想を立てることができた。 学習問題グループごとの話し合いをさせることができた。

12/10 (金) ⑤ ⑥	グループごとに作った学習問題を、計画的に解決させることができたか。	自分たちの作った学習問題を解決するために、計画に沿って質問やメモをとる。	○児童の学習の様子を観察し学習問題を解決する方向を示す。 <調べる力>	質問したり、説明をメモしたりと積極的に、バヤリース工場の見学をしていた。	計画に沿って意欲的に見学させることができた。
12/13 (月) ⑦	工場見学で調べた内容を整理させることができたか。	工場見学で収集した情報を、グループごとの学習問題と照らし合わせながら整理する。	○個々の児童の学習の様子を観察しながらワークシートのチェックをし、ねらいに到達できるように支援する。 <調べる力>	グループの学習問題と関係する情報を整理していた。	グループの学習問題と合う情報を取捨選択させ、整理させることができた。
12/15 (水) ・ 12/16 (木) ⑧ ⑨	グループで発表の方法を相談させ、分担しながら作業を進めさせることができたか。	壁新聞と紙芝居の2つの方法に分かれ、それぞれまとめている。	○収集した情報を、グループで協力しながらまとめさせる。 ○新聞や紙芝居のレイアウトや文字の大きさ等、具体的に指導する。 <まとめる力>	発表方法は決まったが、まとめ方や小見出しの付け方などに時間をかけていた。	グループごとにまとめ方や発表の仕方を相談しながら作業をさせることができた。
12/20 (月) ⑩	作品を仕上げ、発表の練習をさせることができたか。	発表時間5分、をめぐりながら、発表する順番や聞き手に分かりやすい声の大きさなど、練習をする。	○各グループの主体性を尊重しながら、どの児童にも活躍の場があるように支援する。 <まとめる力>	グループごとに、話し合いをしながら、活動を進めることができています。	一つのグループは放課後の活動になったが、それ以外はできた。
12/21 (火) ⑪ ⑫	グループで一人一人の役割を分担して、発表させることができたか。	グループごとにまとめた内容を役割分担して発表する。	○個々の児童がグループの一員として発表できるように支援する。 <発表する力>	壁新聞が3グループ、紙芝居が3グループ発表した。	調べた内容を伝えるために、様々な表現で発表させることができた。

考 察

- ・沖縄バヤリースの商品や社員のユニフォームなどを見せることで、興味、関心を高めることができた。(成果)
- ・具体的に文字の大きさや画用紙のレイアウトなどを白紙に書いて示したり、高学年が書いた壁新聞を参考資料にするなどの工夫が効果的であった。(成果)
- ・調べやまとめ学習という大事な時間帯で、児童の学びの状態把握(机間指導)が不十分であったため、ワークシートを書けていない児童への支援が行き届かなかった。(課題)
- ・教師の意図することや授業のねらいを、児童に理解させるための説明が不十分であった。(課題)

改 善

- ・社会科の「学び方」の流れ(発見する、調べる、まとめる、発表する)を教室に掲示する。
- ・学習問題作りでは、ねらいに沿った方向性を示しながら進める。
- ・どの児童にも共通理解が図られるように、机間指導をこまめに行う。
- ・学習問題作りから解決のための予想を立て、調べ、まとめ、発表する学習の流れの中で、掲示資料を使ったり、どの児童にもわかる説明を行う。

2 授業実践②

(1) 単元名：地域探検（南城市めぐり）＜1月～2月＞

① 授業のねらい

- ア 地域探検に向けて、みんながよく利用する施設や文化財などを調べたいという関心を持たせることができる。
- イ 様々な「はてな」を発見させることができる。
- ウ 調べ、まとめる時に南城市ガイドマップやリーフレットなどの資料を活用させる事ができる。
- エ 南城市のよいところや特色を捉えさせることができる。

② 検証のねらい

- ア 地域探検（南城市めぐり）を通して、児童が社会科の「学び方」によってはてなを見つけ、学習問題を作り、調べ、まとめ、発表することができる。

「学び方」を育てる具体的な指導の工夫	発見する力 <ul style="list-style-type: none"> ・南城市の大型航空写真を用意して、児童の好奇心を誘発する。 ・疑問点（はてな？）をもとに学習問題を作らせる。
	調べる力 <ul style="list-style-type: none"> ・作った学習問題を解決するように方向性を示す。 ・大里，玉城，佐敷，知念の4地域のつながりや他市町村とのかかわりを考えさせる。 ・気づいたことや思いついたことはメモをとらせる。 ・ガイドさんや施設の方への質問はワークシートに用意しておく。 ・南城市発行の資料，インターネット，電話等々調べる方法を考えさせる。
	まとめる力 <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間までに書き留めたメモがまとめる時の材料になることに気づかせる。 ・集めた資料や写真などを使ってまとめさせる。 ・壁新聞（ガイドマップ形式も含む）や紙芝居など，多様な表現方法でまとめさせる。
	発表する力 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示や手持ちの資料を示しながら，相手に分かりやすく説明させる。 ・発表の仕方（①南城市のよいところや特徴を発表しましょう。②聞き手の目を見ながら話しましょう。③掲示資料を指差したりしながら話しましょう。），発表の聞き方（①静かに話し手を見ながら聞きましょう。②南城市のよいところや，もっと知りたいことを書きましょう。③発表が終わったら拍手を送りましょう。）これらを全員で確認する。

(2) 単元について

- ① 教材観 （省略）
- ② 児童観 （省略）
- ③ 指導観

本単元では前単元の地域探検〈沖縄バヤリース工場〉で学んだことと関連させながら、探検の範囲を南城市全体に広げることで、児童が多様な視点で南城市の特色を捉えるようにする。

ふれるやつかむ過程を発見する力として、南城市について多様な視点から気づき、考え疑問点から「はてな」を探し、学習問題作りへつなげる。

追究する過程を調べる力として、学習問題を解決するために資料収集したり、観察や調査といった体験的な学習として地域探検を実施する。

そして、地域探検で得た情報をグループごとにまとめ、発表する学習へつなげていく。

この4つの学習過程を社会科の学び方と捉え、地域探検「南城市めぐり」を通して、社会科の「学び方」を育てる。

(3) 単元の目標

- ① 世界遺産「斎場御嶽」や仲村渠ヒージャー、多くのグスクなどの文化財等に関心を持ち調べようとする態度を育てる。
- ② 南城市の土地利用から、大里、玉城、佐敷、知念の農家にとって生産販売の促進につながる軽便駅かりゆし市 などについて調べ、この4地区の出荷量や農産物の特徴などがわかる。
- ③ 南城市発行のガイドブックを活用することで児童が調べる力を高めたり、資料から得た情報をもとに壁新聞、紙芝居、マップ作りなどができる。
- ④ 児童が社会科の学び方によって、主体的に地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

(4) 観点別評価規準

社会的事象への興味・関心・態度	自分たちの住んでいる市の様子に関心をもち、意欲的に調べようとしたか。
社会的事象についての知識・理解	市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設の場所と働き、交通の様子などがわかっている。
観察・資料活用の技能・表現	市の様子を写真や地図で調べたり、見学・調査したりして、市の様子を白地図、壁新聞、紙芝居、マップなどに表現している。
社会的な思考判断	市の様子を概観することから、問題意識を見だし、調査、追究し、市の特色を考える。

(5) 指導計画と評価 (南城市めぐり 20時間)

過程	学習活動 児童の活動 (○) 見学先 (△) 例 (・)	教師の手立てや指導のポイント(手立て◇)(指導□)	評価 (・)
ふ れ る ①	1. 南城市のことで知っていることやもっとくわしく知りたいことを考える。 △チチンガー・軽便駅かりゆし市・グスクロード公園・シュガーホール・ユインチホテル・おきなわワールド玉泉洞 ○大型航空写真を見て気付いたことや発見したことを発表する。	◇「聞いたことある」「見たことある」等児童が南城市全体をイメージする雰囲気させ、発見する力を引き出す。 ◇大型航空写真を見せて疑問を持たせることで、好奇心をゆさぶる。	・はてなを探し、発見する取り組みが見られる。
つ か む ②	2. 学習問題をつくる。 ・ 斎場御嶽はどうして世界遺産に選ばれたのか。 ・ 軽便駅かりゆし市の商品は何種類ぐらいあるのかな。 3. 学習問題に対する予想を立てる。	◇学習問題を相互交流し教え合う雰囲気を作る。 □5W1Hを意識させて予想を立てさせる。	・発見したら調べるために学習問題を作る、という流れが身に付いている。



見 通 す	<p>4. 個々の学習問題を解決するために、グループで学習計画を立てる。 ○地域探検を通して、南城市の名所や気になるところ、調べてみたい場所などを見て、聞いて、新しい「はてな」を探す。 ○解決したことや気づいたこと、「はてな」を記録する</p> <p>5. 地域探検（南城市めぐり）の学習計画を立てる。</p> <p>③ （行程の確認） △軽便駅かりゆし市、おきなわワールド玉泉洞、グスクロード公園、仲村渠ヒージャー、ニライカナイ橋、斎場御嶽、ユインチホテル</p>	<p>◇予想を立てることで、児童の追究意欲を喚起させる。</p> <p>□個々の児童が作った学習問題をグループの中で相互交流させる。 （調べる方法）</p> <p>◇学級ごとに、マイクロバスで地域探検を行う。</p> <p>◇説明ガイドは軽便駅かりゆし市、おきなわワールド玉泉洞、斎場御嶽の3箇所であることを知らせておく。</p>	<p>・個々の学習問題を確認することができた。</p> <p>・予想をもとに質問などを用意することができた。</p>
追 究 す る	<p>6. 地域探検を通して、学習問題を解決すると共に、新しい発見ができる。 △軽便駅かりゆし市 △おきなわワールド玉泉洞 △グスクロード公園 △仲村渠ヒージャー △ニライカナイ橋 △斎場御嶽</p> <p>7. 地域探検をふり返り分かったことや解決した問題をまとめる。</p> <p>8. 分かったことをもとにしてクイズを作る。 ・軽便駅かりゆし市で人気がある玉城から届く商品は？（答え；海ぶどう） ・南城市内の4地区でサヤインゲンが多く採れるところはどこ？（答え；知念）</p> <p>④ ⑩</p> 	<p>◇南城市の社会的事象（施設、文化、生産販売、土地利用等々）を幅広く見聞きさせる。</p> <p>□学習問題としていない場所でも、新しい「はてな」をさがすように、ねらいをもって参加させる。</p> <p>◇クイズ問題を作るための、グループでの話し合いや役割分担が進むように、声掛けをする。</p> 	<p>・気づいたことや疑問に思ったことなどを細かく記録することができた。</p> <p>・調べた事柄を分かりやすく整理してまとめることができた。</p>
	<p>9. 地域探検で解決できなかった学習問題や新しく調べたい学習問題を作る。 ○学習問題が似通った児童同士でグループをつくる。 △観光・文化財・グスクコース</p> <p>10. 学習問題の予想を立てる。</p>	<p>◇学習問題を相互交流することで、仲間づくりにつなげる。</p> <p>◇予想を立てることで、児童の追究意欲を喚起させる。</p>	<p>・話し合い活動に個々の児童が自分の考えも主張しながら参加することができた。</p>

見 通 す ⑪	<p>11. グループの学習問題を解決する地域探検の学習計画を立てる。 学習計画の視点 (調べること) ○1回目の地域探検は、幅広くであったが今回は行き先をしぼって、時間を長めにして調べる。 (調べる方法) ○学年を学習問題ごとのコースに分けて地域探検をする。</p> <p>12. 2回目の地域探検(南城市めぐり)の学習計画を立てる。</p>	<p>◇解決したことや気付いたこと、「はてな」を確実に記録することを確認する。 ◇資料を活用し、事前に情報を持って、地域探検を実施する。</p>	<p>・グループの学習問題を確認することができた。 ・役割分担して、質問の仕方や順番などの話し合い活動ができた。</p>
追 究 す る ⑫ ⑬ ⑮	<p>13. 地域探検を通してグループの学習問題を解決する。 (観光コース) △おきなわワールド玉泉洞, ユインチホテル, あざまサンサンビーチ (文化財コース) △チチンガー, 仲村渠ヒージャー, 垣花ヒージャー, 斎場御嶽 (グスクコース) △糸数城跡, 玉城城跡, ミントングスク 垣花グスク, 大里城跡</p>	<p>◇学年をプールにして, 各コース(観光2台, 文化財1台, グスク1台)ごとにマイクロバスを割り当てる。 ◇身近な地域の社会的事象を多様な角度から, 見たり考えたりさせる声掛けをする。</p>	<p>・南城市の特色をより具体的に知ることで, 自分の考えを深めることができた。</p>
ま と め る ⑯ ⑰	<p>14. 調べたことを, 分かりやすく伝えるように, 多様な表現方法でまとめる。 ・紙芝居形式 ・壁新聞 ・マップ等々</p> <p>15. まとめた作品を使った発表の方法と役割分担を話し合う。</p>	<p>□話し合い活動を充実させるように声掛けをし, 作業の役割分担がスムーズに進むようにする。</p>	<p>・多様な表現方法の中から上手に選択し進めることができた。</p>
発 表 す る ⑱ ⑳	<p>16. グループごとに様々な表現で発表する。 ○発表を見たり聞いたりする中で, どのグループも自分たちの学習問題について深める。</p> <p>17. 単元全体の感想を書いて, 発表する。</p>	<p>□発表をもとに話し合いをする中で, 学習の内容をとらえさせる。</p>	<p>・学習内容をまとめることができた。</p>

(6) 本時の学習(8/20時間)

① 本時の目標

- ア 地域探検(南城市めぐり)でわかったことをもとにして生活グループごとにクイズを作ることができる。
- イ クイズのやりとりをする中で, もっと調べたいという学習意欲を引き出し, 次時へつなげることができる。

② 手立て・指導ポイント

- ア 地域探検のメモがクイズ作りに役立つことを気付かせる。

イ クイズの中から、次に調べたい学習問題が作れることに気づかせるようにする。

ウ 発見、調べ、まとめ、発表する「学び方」の流れを掲示資料で示す。

③ 本時の展開

過程	学 習 活 動 (○ 教 師 の 主 な 発 問)	教師の手立てや指導のポイント (手立て◇)(指導□)	評価(・)視点(◎) 《観点別評価》
導入 5分	1. 前時（地域探検《南城市めぐり》）を振り返る。 2. 今日の学習のめあてを確認する。 めあて ○地域たんけんてわかったことや発見したことからクイズを作ろう。 ○クイズを出し合ってたくさんの「はてな？」を見つけよう。	◇掲示資料で「学び方」の流れを確認する。	・ 地域探検の記録を見ながら確認させることができたか。 ◎今日の学習は「発見する力」を高めるであることを確認できた。
展開 10分+20分	3. グループごとに自分たちの言葉でわかりやすいクイズを作る。 ○わかったことをもとに、クイズを作りましょう。 ・HOW：どうして大里では海ぶどうが採れないのですか？ ・WHAT：南城市内で一番多くとれる野菜は何ですか？ ・WHY：なぜおきなわワールドという名前をつけたのですか？ ・WHEN：軽便駅かりゆし市はいつからお店をやっているのですか？ 4. クイズを出し合い、地域探検で得た情報を確かめる。 ○これからクイズ「ふしぎ発見南城市」をおこないます。 	◇グループごとに席を変える。 □5W1Hの確認をする。 気づかない児童へは机間指導する。 (参考例) ・○○はいつできたのだろう。 ・なぜ○○は～したんだろう。 ◇クイズのやりとりの中で自分が知らなかったことや、新しい発見があることを気づかせる。 ◇司会は担任で進める。 □発表の約束 ・答える時の語尾は～です。～ます。で終わるようにさせる。 	・ 探検のメモを活用できた。 ・ 探検メモをもとにクイズ問題を作ることができた。 《資料活用の技能・表現》 ◎探検で発見してきたメモを活用させることができた。 ・ 調べてわかったことをクイズ形式で発表ができた。 《技能・表現》 ◎次の時間からはコースごとに分かれることを理解させることができた。
まとめ 10分	5. 本時の感想を書いて発表する。 6. 次時の予告をする。 ○さらに調べたいことで学習問題を作りましょう。	◇机間指導で児童の学びを観察する。 ◇学習問題ごとでグループ作りをすることも知らせる。	・ 南城市全体の様子を思い浮かべて次の学習問題を作ることができた。 《興味・関心・態度》

(7) 本時の評価

- ① 地域探検（南城市めぐり）で分かったことをもとにして、グループごとにクイズを作ることができたか。

今回は敢えて、社会的事象への関心が違う、生活グループにすることによって多様な視点からのクイズが出てきた。そこで、児童のワークシートの記述を考察してみると、「調べたことからクイズが上手く作ることができた」(53%)、「教えてもらったりして作ることができた」(20%)、「難しかったけど作れたから良かった」(15%)、「自分が考えたクイズが選ばれなかったから残念」(6%)などと、調べた内容をもとに、クイズ作りが上手くできていたことが分かる。

- ② クイズのやりとりをする中で、もっと調べたいという学習意欲を引き出すことができたか。

クイズ作りは上手くいったことから、出題されたクイズを一つ一つ取り上げ、称賛し、みんなで答えを考えるようにした。そして、正答に対して教師が「他にはないのかな」、「どこから」、「どのようにして」など児童の「はてな」をゆさぶる声かけをした。

児童のワークシートから、「軽便駅かりゆし市の事が良くわかった」や「知らなかったことがわかった」(41%)「もっと調べたくなった」や「わからないことがあった」(32%)などの声が多かった。残りの27%の児童は「クイズに答えるのが楽しかった」、「正解できてうれしかった」などとなっている。

このような児童の声から、クイズ作りを授業に取り入れたことで、「もっと知りたい」という学習意欲を引き出すことができた。また、クイズから新しい発見をした児童も見られたことから、次時の学習問題作りへつながることが考えられる。

そして、クイズを出したり、答えたりする中で、身近な地域の社会的事象に関する興味、関心が高まり、学習意欲への刺激になっていることも考えられる。

VI 研究のまとめ

本研究においては、社会科の「学び方」として「発見する力」、「調べる力」、「まとめる力」、「発表する力」を育てるために、2つの単元で地域探検として、「沖縄バヤリース工場見学」1回と「南城市めぐり」2回の計3回実施してきた。

これまでの授業実践が社会科の「学び方」を育てるために有効であったか、児童の変容をワークシートやアンケートから考察する。

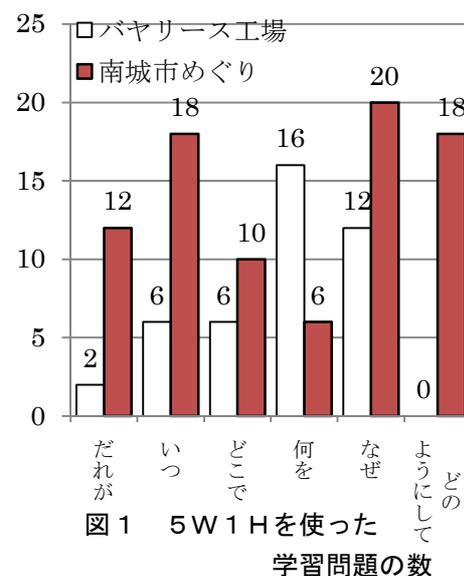
1 「学び方」

(1) 発見する力

身近な地域の社会的事象から、「はてな」を探そうと働きかけ、「発見する力」を高めるために具体的に5W1Hを使って学習問題作りができるように支援してきた。図1から、1回目の「地域探検」「バヤリース工場見学」では、作られた学習問題が全員で42問であった。それに対して、2回目の「南城市めぐり」では、84問と、総数で2倍に増えている。

さらに、学習問題の内容として、1回目は「どのようにして」を使う児童が見られなかったのに対して、2回目は18問に増えている。

このことから児童の「発見する力」は高まったのではないかと考えられる。



(2) 調べる力

調べることに関する、指導の中で「記録の仕方」に関して児童のワークシートを見てみる。ノートと平行してワークシートを使ったことに対して、「メモがいっぱい書けたからよかった」(17名)、「学習問題とわかったこと、感想など書きやすい」(5名)、「調べていっぱい書いたから壁新聞に使えた」(4名)など合わせて76%(26名)の児童が、記録の仕方を学習に反映させていることが伺える。

また、副読本の「わたしたちの南城市」や南城市発行の「グスクマップ」、「南城市観光マップ」などから、資料を整理して活用できる児童も見られた。

さらに、児童の声を紹介すると、「資料から文化財の名前を見つけた」、「マップからグスクの場所がわかった」、「資料から知らなかったことがわかった」など資料の地図や一覧表から、自分たちの学習問題を解決するヒントを探し出すなど、資料を活用する力が高まったことがわかる。また、地域探検の感想の中にも、「初めて知ることができた」や「もっと調べたいと思った」などの記述が見られる。

しかし、観光・グスク・文化財などの一般の資料を児童に配布したため、難しい漢字や専門用語があり、一部の児童にしか活用させることができなかった。

それを改善するために、資料(ガイドマップやリーフレットなど)は、どの児童でも使えるように、児童の発達段階を考慮し、単元のねらいに沿った「地域探検しおり」などを作成する必要がある。

「調べることは好きですか」という問いに対して、「バヤリース工場見学」と「南城市めぐり」を図2で比較すると、後者が87%の30人で前者が約74%の25人であった。

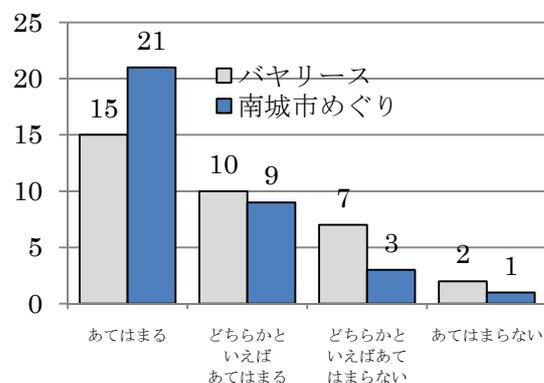


図2 調べることは好きです

(3) まとめる力

調べた内容をワークシートに整理し、学習問題を解決したことなどを、多くの児童がまとめることができた。

調べた材料をどのようにまとめるか、グループで相談をしながら学習を進めた。始め、どのグループもみんなで壁新聞と紙芝居の方法を用いてまとめながら、個々の役割分担について話す様子も聞かれた。そんな中で、前の時間から多様な表現方法(資料1)を紹介していたこともあり、個々の児童が図3のように多様なまとめ方を取り入れてきた。「ア 言語を中心とした表現方法」選んだ8名は、調べた内容を原稿用紙1枚程度にレポート形式でまとめた。「イ 文字や絵を使った表現方法」を選んだ児童が23名と一番多く紙芝居、壁新聞、絵地図にまとめていた。「イ 身体を使った表現方法」でペープサートを使ってまとめた児童も3名見られた。

このように、多様な表現方法を用いてまとめる学習ができたことは、グループ内の話し合いの中で、個々の児童の役割分担を明確にできたからと考える。

ワークシートから児童の声を挙げてみると「役割分担したから楽しくできた」や「地域探検で調べたメモが役に立った」、「文章でまとめたり、図を書いたり、難しかったけど最後までできてよかった」などとまとめることを、好意的に捉えている。

児童の声や多様な表現方法を用いてまとめている様子から、全体的に「まとめる力」は高まってきていると考えられる。

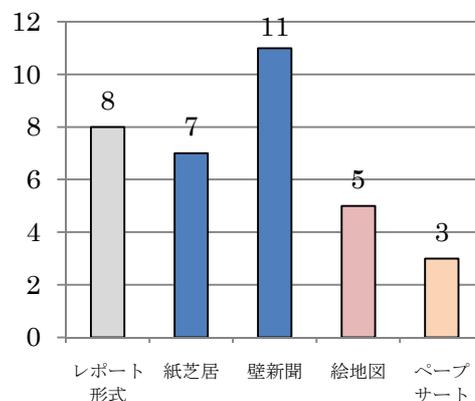


図3 自分なりに整理した方法

(4) 発表する力

グループごとにアイディアを活かして、様々な表現で発表ができた。そして、作品を手持ちにしたり、黒板掲示にしたりなどの工夫を加え、相手に分かりやすい発表ができた。

その成果を児童のワークシートから見てみると、「図や記号が使われていたのでわかりやすかった」、「文字の大きさと色使いが工夫されていた」、「地図をていねいに書いて、わかりやすく説明していた」など、具体的に何がよかったのかを多くの児童に感じ取らせることができた。

また、「緊張したけど、すらすら文を読むことができた」、「相手の目を見て発表ができた」、「練習通り、上手く発表ができた」、「調べたことを大きな声で、伝えることができた」などと聞き手に伝えることを努力している様子が伺えた。この中でも、少数ではあるが、「練習通り、上手く発表ができた」とする児童は、発表の順番や指示棒の使い方の確認をするなど、細かい工夫が見られた。

このことから、児童の「発表する力」は個々の児童に差は見られるが、徐々に高まっていることが分かる。

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 身近な地域の社会的事象から「はてな」を発見し、5W1Hを使った学習問題を作り、様々な資料や情報を活用するなど、「発見する力」と「調べる力」は高まったものと考えられる。

〈VI-1-(1)(2)〉

(2) 多様な表現方法でまとめ、相手にわかりやすく発表する児童も見られたことから、「まとめる力」や「発表する力」は高まってきたものと考えられる。

〈VI-1-(3)(4)〉

(3) 「地域探検」を通して、児童に身近な社会的事象と多く触れさせることにより、「南城市大里に住んでいてよかった」と多くの児童に感じさせることができた。

2 今後の課題

(1) 社会科の「学び方」を定着させるために継続して指導していく。

〈主な参考文献〉

有田和正著	『学習技能を鍛えて「追究の鬼」を育てる』	明治図書	2003年
近藤国一著	『学び方学習の指導』	明治図書	1984年
北 俊夫著	『「生きる力」を育てる社会科授業』	明治図書	1998年
吉田高志編、福井グループ著	『見学のまとめを活かす授業』	明治図書	2010年
安野功・柳下則久著	『図解 社会科授業 活動と学びをつなぐ』	東洋館出版社	2009年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説社会科編』	東洋館出版社	2008年
南城市教育委員会	『わたしたちの南城市(3・4年)』	国際印刷	2007年
教育出版株式会社	『小学校社会3・4上教師用指導書』	教育出版	